

令和7年度 第4回 飯田小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月5日（木） 13時50分から15時30分まで
- 2 開催場所 飯田小学校 校長室
- 3 出席委員 杉山邦司、露木里江子、小野逸子、白井竜之、鈴木美枝子、鈴木大輔、廣瀬亜紀子
- 4 欠席委員 中村毅
- 5 オブザーバー 神谷匠（東部協働センター）
- 6 学 校 勝亦英彦（校長）、町田全広（教頭）、森島広人（主幹教諭）
河村拓実（生徒指導）、鈴木卓（CS担当）、小林知美（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 小林知美
- 9 議長の選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から鈴木大輔委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 学校関係者評価（「いじめ防止基本方針の取組状況・達成状況」を含む）
- (2) 来年度の学校運営の基本方針の概要説明
- (3) 学校運営協議会の自己評価
- (4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価（「いじめ防止基本方針の取組状況・達成状況」を含む）

主幹教諭、生徒指導から資料に基づき、学校関係者評価についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 自分からあいさつしてくれる子供が増えた。先生方が熱意をもってやっている。（杉山委員）
- ・ 飯田小の児童が「夢に向かってできること」は、地域の誇りである。地域に根差している福長さんという分かりやすいモデルがいることは、教育的にいいと思う。
保護者は、子供と意見を伝え合えることが重要。家庭でも話せる環境作りが大切である。
(露木委員)
- ・ 子供達のがびのびしてきている。個人の力を伸ばしながら、飯田小の子としてのアイデンティティを育てつつ、集団行動とのバランスをどうとっていくかが難しいところである。（白井委員）
- ・ 上靴忘れについて、大前提として上靴を忘れてくる子が悪いが、安全を考えると、学校で一日中履かずにいるのは危ない。災害時も考えると、靴底を雑巾で拭いて外履きを履くとかりサイクルの靴を貸し出して履く（必ず洗って返す）とかしてもいいと思う。（廣瀬委員）
- ・ 「夢に向かって共に命をかがやかせる子」の飯田小の教育が、夢を持てる子に育ててくれている。親も協力していかないといけないと思う。（鈴木美委員）
- ・ 学校評価にもあるように、言葉遣いが気になる。友達同士はいいが、TPOに合わせた言葉遣いができるといい。（小野委員）
- ・ 言葉遣いでは、ユーチューブ等で汚い言葉を使っているものを見掛ける。ユーチューブを見ないよう止めすぎても子供は反発するので、一緒に見て本人に何がよくないか伝えるのも大切。
(神谷オブザーバー)
- ・ 家庭環境が様々で、いろいろな子がいる。命の危険がないことが一番大事。どの子にもいろいろな人に見てもらえているという安心感をもってほしい。そういう面でも学校と家庭と地域の輪をつなげていながら、改善できるところは改善していきたい。（鈴木大委員）

- ・ いじめの未然防止について、「またあいつか」とか「またやってる」という言葉は、その後のいじめや差別につながる言葉なので気を付けたい。多様性の対応や思いやりの気持ちを子供たちに伝えていくことは大切。
子供達は「キラホ」のことをよく分かっていない。(廣瀬委員)
- ・ 「キラホ」は、学校へ行けない子が、少しでも登校できるようにするための場所。そのため、キラホ内では、遊んで過ごすことがよしとなっている。「いるむ」は、教室内では落ち着けない時や話を聞くための場所。保護者にもっと認知してもらう必要がある。(校長)
- ・ いじめに対しては、情報を共有し、風通しを良くしておくことが大事。その子の将来のためにも小さいうちに悪いことの芽は摘みたい。(白井委員)
- ・ 小学校では、先生方・保護者がいじめに対応し、温かく見守っている。成長していく過程で、いじめについて学び、社会に出たら、自分で対応していく力をつけていかなくてはいけない。(露木委員)
- ・ 早めに芽を摘んでいけているのは、先生方のおかげである。価値観や多様性の違いをどう子供達に伝えるかが大事。大人がまず努力していかなければならない。保護者の方の協力も必要。
(鈴木大委員)
- ・ 地域の方向けに分けられているタスキをつけながら地域を周り、子供たちを見守るのもいい。
(神谷オブザーバー)

(2) 来年度の学校運営の基本方針の概要説明

校長から資料に基づき、次年度学校運営の基本方針についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ タブレットは、使用状況がわかるか？機械を扱う時間や教える時間はどうか？ (杉山委員)
- ・ 表示されるためわかる。文房具の一つとして扱っている。教員が授業内で使い方を教えている。高学年は、すぐに対応できる。子供は、理解が速い。(校長)
- ・ 教職員の時間外の仕事が気になり、心配である。「キラホ」「いるむ」も、常に職員がいるわけではなから、教職員が対応していかななくてはいけない。人を増やすのが一番だと思う。(白井委員)

(3) 学校運営協議会の自己評価

会長、教頭から資料に基づき、学校運営協議会の自己評価について説明があった。
全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

- ・ CSコーディネーターより、来年度の地域ボランティアの募集の仕方やサポート内容の集約をしている旨の報告があった。
- ・ 司会から夢育やらまいかCS加算分の報告があった。また、次年度の委員、会長・副会長・議長の選出について確認があった。
次年度第1回会議は、令和8年5月18日(月)13時30分から校長室で開催する予定である旨の報告があった。